

これまでの私たちの要求がこれからの社会の要求となる

誰もが大切にされる社会について考え その実現に向けて団結しよう

私たちは、新型コロナウイルス感染症の流行により、これまで当たり前だったことが当たり前でなくなり、当たり前であったものの中にも見直すべきものがある、ということに気づき始めました。

学校現場では、パソコン上で生徒とやりとりする経験を通して、その便利な一面を体験しつつも、対面で対話することの意義にあらためて気づかされました。ICT 環境の差から家庭の経済状況の格差をも実感することとなりました。

「身体的距離の確保」「生徒たちの健康管理」「個別の支援」などを考えると、1 学級の人数や1 講座の人数がこれまで通りでは非常に困難であることに気づき、そのことによって、本来、生徒一人ひとりに寄り添った教育をするために必要な環境が、これまで確保されていなかったことにも社会は気づき始めています。

新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」、たとえば、外出を減らしたり、徒歩や自転車利用を増やしたり、時間をずらしたり、短時間で済ませたり、体調が悪いときは休んだり、などを実践することは、私たちがこれまで持っていた価値観をも見直すことです。それは、どのような社会の実現をめざすのか、ということを考えていくことに他なりません。

あらためて気づいたことを大切に、「これが当たり前の社会だ」と何の疑問も持たずに暮らしてきた価値観を一旦手放し、本当にあるべき社会とはどんなものを根本的に議論する。その先に、格差を拡大させ、世論を無視し、都合よく憲法の解釈を変え、政治を私物化するような政府を再び誕生させない社会の実現があるのではないのでしょうか。

市高教組は、このような新たな状況で、どのような社会の実現をめざすのか、どのような教育を進めていくのか、どのような主権者を育てるのか、をこれまで以上に議論し、多くの教職員に伝えていくための方法、形態を柔軟な発想で模索します。そして、そのこと自体が私たちの「新しいライフスタイル」となるよう積極的に実践していき、多くの仲間の賛同が得られるよう団結します。

以上、決議します。

2020年12月19日

京都市立高等学校教職員組合第83回定期大会